

中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2024年「東アジアフォーラム」自由研究発表報告

城西国際大学大学院
盛 樑凱

2024年12月14日(土)から15日(日)にかけて、中国・厦門大学で開催された中国社会学会社会福祉研究専門委員会主催の「東アジアフォーラム」において、自由研究発表の機会をいただきました。このような貴重な機会をくださった学会の皆様、心より感謝申し上げます。

本フォーラムには、中・日・韓三国の社会福祉学界から多くの専門家や研究者が一堂に会し、高齢者福祉、社会保障、ソーシャルワークなど多岐にわたるテーマについて活発な議論が行われました。

自由研究発表セッションでは、私は「中国介護職員専門学校のカリキュラム改善に向けた検討ー介護専門職教育カリキュラムに関する日中比較からー」をテーマに発表を行いました。本研究の目的は、中国と日本の介護職員養成専門学校の教育カリキュラムを比較し、それぞれの特徴や改善点を明らかにすることです。フォーラムでは、中国全国の316校の介護職員養成専門学校から各省の大規模校27校を選定し、カリキュラム構成や高齢者に関する知識・理論科目、介護技術に関する科目、必修と選択授業の配分や時間数についての実態調査について発表を行いました。

本調査の結果、中国では、学校ごとに介護技術科目の授業時間に大きなばらつきがあり、特に知識・理論科目の授業時間が多く設定されている傾向が見受けられました。一方、日本では法的に整備された統一的なカリキュラムが存在し、介護技術科目の授業時間が知識・理論科目を上回るという特徴が確認されました。これらの結果を踏まえ、今後、中国においても全国的な教育基準の統一を目指しつつ、理論教育と技術教育のバランス検討、調整することが重要であることが明らかになりました。

介護人材の育成は質の高い介護サービスを提供、維持するために不可欠であり、社会全体の福祉に直結する重要な課題です。その為、効果的な人材育成の為には、教育課程やカリキュラムの見直しが必要であり、理論と技術のバランスを取ったプランが求められます。今後は、両国が協力して、より良い介護人材育成のモデルを構築していくことが、持続可能な社会の実現に向けて重要な一歩となると結論づけました。

今回の発表では、多くの有益な質問やコメントをいただき、今後の研究の展開に向けて重要な示唆を得ることができました。特に日本社会福祉学会の皆様からの温かいサポート、研究を支えてくださった城西国際大学、そしてご指導をいただきました林和歌子教授に、心より感謝申し上げます。このような貴重な機会をいただけたことを、改めて感謝いたします。